

# 流れのほとりて

## 女性委員長よりの挨拶

JEA 女性委員会は、1989年にWEFの女性大会に派遣された数名の女性の熱意と当時の理事会の配慮と英断によって、1990年正式に発足しました。これまで時代と教会に仕えるために必要な活動をしてきました。

その活動の中心でありますリトリートは1991年を第一回とし、女性の視点で時代を見据えつつ共通の課題を選び、二年に一度開催してきました。そして第四回日本伝道会議で女性委員会が取り組んだテーマ「ともに生きる家族と伝道」は、その後のリトリートの柱となりました。昨年6月の第七回リトリートでは、「心のオアシスを求めて」というテーマで丸屋真也師の講演がなされました。夫婦、家族、社会そして個人の霊的自立について専門的立場から語ってくださり、すばらしい学びのときとなりました。

女性委員会では、これまでに養い得た大切な視点と示唆をぜひ多くの方々と共有したいという願いをもって、2006年

6月札幌で開催されるJEA総会において今回特別に企画された公開シンポジウムの中で女性委員会主催の集會を企画いたしました。『神の前に女性としてどう生きるか』というテーマで行います。女性委員会委員総出で参加し、出席者の方々とのすばらしい出会いが与えられるよう心から願っております。現在、女性委員会では委員長交代も含め新たな体制作りを行っております。また新しい女性の人材発掘にも取り組みたいと望んでおります。ぜひお祈りください。

命と愛が軽視され、混乱と悲しみが世界を覆っているこの時代、女性の視点でこの時代に仕えていくということがますます重要となると思います。女性委員会が、教会の大半を占める女性たちのよき交流・研鑽・協力の要となることができまうように、お祈りとお支えをよろしくお願いいたします。



JEA 女性委員会委員長  
神津喜代子

## 女性の学び No.1 『性差によるのか賜物によるのか』

私たち女性委員会は著書『性差によるのか賜物によるのか (Gender or Giftedness)-キリスト教界におけるリーダーシップの根拠の再考察-女性の聖書の位置づけに関する研究資料』(マリリン B.L. スミス著)の翻訳文を少しずつ学んでいます。本の題から推測できるかと思いますが、かなり微妙なテーマを扱っています。私たちがその内容に目が開かれる思いがしたり、励まされたりしつつも、時には、新しい発想に戸惑いや違和感を覚えることもあります。

しかし、敢えて皆さまにもお分かちしようと思したのは、この本が世界福音同盟(WEA)の女性委員会から出版されているからです。また、この本からも多くのことを学ぶことができるからです。

但し、この本の立場が必ずしも JEA 女性委員会、あるいは JEA の立場ではないことをあらかじめお断りしておきます。学びのための一資料としてお読みいただければ幸いです。

この本が出版されるようになったいきさつが、本の序文に記されていますので、補足説明しながらご紹介したいと思います。

《序文》 1992年、マニラにおける世界福音同盟女性委員会主催の会議の場で、クリスチャ



ン女性の家庭、教会、社会における聖書の位置づけに関する研究資料作成への要望が明確に打ち出されました。世界各国代表(アフリカ3人、アジア3人、カリブ諸国1人、ヨーロッパ1人、中南米2人、中東1人、北米1人、南太平洋1人)がそれぞれ自国の女性たちが何を最も必要としているかを報告しました。その結果、程度の違いはあれ、問題は基本的に教育、励まし、そして模範または指導という三つの分野における必要であることがわかりました。

それらの必要が確認された後、その必要に対処するために要する資料と、その必要を満たすに当たっての障壁の性質が明らかにされました。そこで、女性の基本的な必要の一つ一つに取り組むための特別プログラムが委員会によって始められました。

教育の分野に関する討議が始まってみると、基本的な読み書きを必要としている国々から、管理技術の上級訓練を必要としている国々まで、その必要は幅広いものであることが明らかになってきました。それと同時に、国や地域を問わず、女性は男性の権威の下にあって、男性の補助的な働きをするべきであるという、教会の伝統的な教えが、女性にとって彼女たちの文化(社会)の中にすでに存在している教育の機会を活用する大きな妨げになっていることも明らかになりました。また教育の機会を得ることのできるクリスチャン女性たちも、学んだことを教会という場の中で用いることができない可能性もあります。男性が権威ある地位を占めているところでは、読み書きであると管理技術の上級訓練であるを問わず、女性が教育から益を受けることができる自由は、男性が何を許容するかによって制限を受けることとなります。

そこで、どのような教育計画が展開される

にしても、男性も女性も、女性の位置づけについての伝統的な教えを再考察する必要がある、そのために、しっかりとした基礎を築く手助けとなる研究資料を提供するのが賢明であると思われました。クリスチャン女性たちが、貧困と搾取(多くの場合は売春)の悪循環から抜け出すためには、そのための努力は聖書の教えに矛盾してないことを知る必要があります。また女性たちが、神に召しに応じて、教えることや管理の分野で賜物を用いるためには、それが神の御旨にかなっていることを知る必要があります。クリスチャンの男性たちも、女性たちをこのように新しい奉仕の分野に向けて励ますことが、聖書的であることを知る必要があります。



本書の資料は、以上述べられてきたような教育の必要に応じるために準備されました。信仰の共同体における女性の働きは、霊的な賜物という観点から述べられています。その際、「性差が働きを決定するのか、それとも、働きは召しと賜物から生じるものなのか」また「何を根拠にこの決断をするのか」という問いかけをしています。

熱心に、献身的に、情熱的に、そしてすべての賜物をもって神に仕えたいと願っている女性たちに敬意を表しつつ、本書を諸教会に捧げます。願わくは、本書が世界中のイエス・キリストの教会に新しい希望と新しい活力をもたらすものとなりますように。

1997年5月 世界福音同盟女性委員会

今後継続してこの書の翻訳文を紹介しながら、女性の賜物と性のつながりについて学んでいきたいと思ひます。(翻訳 内田みずえ)

## 《簡単・楽しい Sunday Lunch》

榎原 邦子

「食」を共にするという事は、とても楽しいことです。ことに、普段ひとりでの食事が多い人にとってはなおさらではないでしょうか。



教会で「食を共にする」という愛餐の起源は、初代教会のキリスト者の会食で、聖餐礼典の前か後にされたものと思われます。愛餐は「パンを裂くために集まった」(使徒 20:7) 営みに含まれていました。初代教会の聖徒同士がみことばの分かち合いだけでなく、食卓の交わりを通してイエス・キリストの愛を分かち合い、美しい共同体になったように、私たちの教会も、礼拝のメッセージをいただき、そして、楽しい Sunday Lunch による主にある交わりを通して成長させていただきたいものです。

サンフランシスコにある日系人教会では、日本の教会もそうですが、カレーが時折りランチメニューに登場します。それは、手軽に、簡単に作れるからとのこと。初めは、それぞれに作ってきたカレーをそれぞれに出していましたが、ある時「作ってきたカレーをミックスしてみましたはどうか」ということになったそうです。全部のカレーをミックスしました。すると、とてもまろやかで味の深い、いちだんと美味しいカレーになったのです。このことから、カレーを作ることに自信のなかった方も「これなら気軽に作ることができる」ということになって、食べるだけでなく、作る喜びを味わうようになったのです。なんでも、ひとりでとなると「失敗したらどうしよう」と心配したり、プレッシャーになってしまふことがあります。時にはミックスする... いうこんなランチもいかがでしょうか。そうすれば、「私、食べる人」から「私も、作る人」となり、そして作る喜びを経験できるのではないのでしょうか。

教会のランチは誰かが作るものと決め付けずに、時にはこのような方法も楽しいランチタイムになるのではないのでしょうか。

## 《海外コーナー》

内田みずえ

明日は50歳の誕生日という夜中の11:45。「50代の10年間は英語を用いて神様と教会にお仕えしたいと思います」という祈りは、神様の御心にならなっていたようで、その時以来驚くほどいろいろな機会が与えられています。その第一号は、初代女性委員長の高晶子先生からのお誘いでした。1999年8月、タイのバンコクで開かれた「アジア女性協議会」に出席なさる先生の「かばん持ちとして来ないか？」というおことばに、会議の中味もよく知らないままお伴いしたのでした。

その後少しずつ理解してきましたことをお分かちしたいと思います。JEA に専門委員会の一つとして女性委員会がありますように、アジア諸国の福音同盟にも女性委員会があります。日本より早く発足した国も

あれば、日本より後の国、今だに独立した女性委員会のない国、と様々です。各国の女性委員会から代表者が一人ずつ出されて、そのメンバーでアジア福音同盟女性委員会が構成されています。

ちなみに、現在は、オーストラリア、バングラディッシュ、カンボジア、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、ミャンマー、ネパール、モンゴル、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイそして日本の15カ国から代表が出ています。その中で、実行委員会は、タイのヴァライポーン・ヴィリヤコヴィント(委員長)、インドのリラ・マナッセ(書記)、インドネシアのミエナ・メナヤング(会計)、他の委員は、日本、韓国、マレーシア、フィリピンの代表の計7人で務めさせていただいています。

アジア諸国に散らされていますから、頻

繁に委員会を持つことはできませんが、2004年4月に韓国で開催された、「アジア教会会議」の中で、あるいは同年11月のインドにおける「全アジア福音主義女性会議」の中で意見交換、交わり、そして祈りの時を持ちました。

10年間アジア女性委員を務められた湊先生、2年弱の稲垣緋紗子先生の後を継いで、私は今年で4年目に入っています。JEA 女性委員会の働きや祈りの課題をメールで報告すること、要請があれば年に3回くらい発行される機関誌「アジア・チャーチ・トゥデイ」に日本に関して記事を書くこと、日本にアジアの様子を知らせることが私の役目ですが、3番目の点が今まで十分にできていませんでしたので、今後この紙面をお借りしてご報告したいと思いますので、よろしくお願いたします。

## ■簡単メニューの一例■

### 野菜たっぷりの簡単そーめん

○材料・市販のドレッシング (中華・和風お好みでどれもO.K)市販の、流水で洗うだけの麺、きゅうり・玉ねぎ・トマト・レタス・生ワカメ・ミニ竹輪・ハムなど。サラダになるものなんでもOK・これらを好みの形にカットし、水分しっかり拭き取って冷やしておく。

○盛り付けと食べ方

・礼拝後、麺をザルに入れて流水で洗い、水分をしっかり切る。

・各自の皿に麺を盛り、その上に野菜類をのせ、食べる時に、各自好みのドレッシングかけ、全体を混ぜて食べます。

### ミックス三色どんぶり

○材料・とりのひき肉・卵・青菜・紅しょうが(千切りのも)・ご飯。

○ご飯は礼拝の終わるころまでに炊き上げておく。

○とりのひき肉は、何人かで手分けをして甘辛く作ってくる。作ってきたものを全部鍋に入れて一度、火を通しながらミックスする。

○卵も、何人かで手分けをして甘辛い いう卵を作ってくる。とりのひき肉 同様に全部をミックスする。

○青菜・安く手に入るものなんでも OK。色よく茹でて食べやすい形に切ってくる。

○盛り付けと食べ方

どんぶりまたは、皿に温かいご飯を盛り、その上に ひき肉、卵、青菜、紅しょうがを飾る。全体を混ぜて食べます。

★最後に美味しい Sunday Lunch を召し上がった方々へのお願い祈りながら、心を込めて準備してくださった方々への感謝をことばで現わしましょう。

「美味しかったよ！ありがとう！また宜しくね！」

こんなひとことが作る方々へのねぎらい次へのエネルギーになるのです。



《いのちのパン》  
神の霊によって  
桑原信子  
「武力によらず、権力によらず、ただわが霊によって、と万軍の主は言われる。」(ゼカリヤ書 4:6)  
この言葉は、バビロン捕囚から帰還して、神殿再建をしようとするイスラエルのリーダー、ゼルバベルに対して、預言者ゼカリヤを通して神が語りかけた言葉。これは、神の働きは神がされる。働きを担う者は神にしっかりと繋がりにさい。聖霊が満ちて、その働きに神の栄光が輝きますという励ましの言葉です。  
「神の働きは神が為さる」と分かっているが、なんと、自力に頼り、成し得た事を誇りやすい者であるかを思わされま

「わが霊によって」と今、神は、新体制で、新たな働きを進めようとする女性委員会に語りかけておられます。この語りかけに、励まされて、心を合わせて祈り、これからの歩みを、ただ神に委ね、忠実に従って行きたいと願われます。